

食の安全性について考える

食に関連する予防医学と豆知識

ご存知の方もいらっしゃると思いますが、先日フジテレビの番組の中で、細木数子さんがつい口を滑らし、今裁判沙汰になっている問題があります。それは卵の問題です。養鶏所で飼育されている親鳥が、向きを変えることも出来ない狭い部屋で過ごし、四六時中ライトを当てられて餌にはホルモン剤や抗生物質を含んだものを与えられ、毎日無理やり卵を産まされている。スーパーマーケットで売っている 1 個 10 円の卵はこの卵で、これには栄養価値がない、と彼女は話したそうです。

これに対して、養鶏所関係者からは相当なクレームが出されており、今、裁判にまで追い込まれているようです。養鶏所関係者からは、薬事法を守った安全基準で使用しており、問題はないといいますが、果たして本当なののでしょうか。人間の立場で考えてみると、女性に対して少量ずつ、抗生物質やホルモン剤を使用し続けた場合、妊娠すれば高い確率で奇形児になるでしょう。つまり、我々が普段口にする卵は将来奇形になるリスクを高く秘めている卵であり、これが良い栄養になるはずがありません。

細木さんは、表現には問題があったかも知れませんが、ある意味本当のことを伝えたと思います。しかし、本当のことを伝えられると困る人たちも沢山いるため、今回の問題に発展しております。これに対してフジテレビは「事実誤認」として謝罪しましたが、国民に本当のことを伝えることよりも、企業利益を優先するという体質が垣間見れます。

日本には食品添加物が 451 種存在しております。これは世界でもダントツに多く、あのアメリカでさえ 133 種と言われております。ヨーロッパの基準はもっと厳しく、ドイツは 32 種、イギリス 21 種と言われております。もちろん厚生労働省は安全としてくれておりますが、本当に安全なののでしょうか。先のアスベストでは他国ですでに危険とされているものを日本は安全として使い続けてきました。そして昨今の大きな問題となりました。安全の基準が国民ではなく企業の基準になっていたことは皆さんも良くご存知のことでしょう。この国では、国民の利益よりも企業利益が最優先されていると感じるのは私だけなののでしょうか。